

# 英語ライティングの Planning 段階における汎用型生成 AI の活用

工藤 洋路

## 1. 教師が適切なプロンプト作成を行う

2022年11月にOpenAI社よりリリースされたChatGPTは、英語学習および英語教育のさまざまな側面に大きな影響を与えてきた。現在では多様な生成AIが公開され、日本の小・中・高等学校の児童・生徒も少なからず利用しているとの報告を、教育現場の教師から耳にする機会が増えている。

2026年2月時点において、日本の小・中・高等学校における生成AIの利用の在り方については、文部科学省が2024年12月に公表した「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver. 2.0」に詳細が示されている。全体として、児童・生徒が自らプロンプトを作成し、教師の指導がない状況で生成AIの出力を課題達成のために自己判断で用いることは推奨されていない。したがって、児童・生徒に生成AIを利用させる場合には、教師が主導しながら適切な活用方法を学ばせる必要がある。そこで、本稿では、英語ライティング指導に焦点を当て、教師が作成したプロンプトを学習者に利用させながら、英語ライティング能力の向上に資する生成AIの具体的な活用方法を提案する。

## 2. Planning の段階に焦点を当てる

文部科学省は「AIの活用による英語教育強化事業」を立ち上げ、全国約50の採択団体が令和7年度にAIを活用した英語教育の実践を行った。その成果報告会が2026年2月3日に開催され、各団体による実践発表が行われた。発表内容を見ると、ライティングに関しては、「添削」機能を備えたAIアプリを使用している事例が多く見られた。これは、Flower and Hayes (1981)が提唱したライティングの認知プロセスモデル(Planning → Translating → Reviewing)に照らすと、生成AIの活用が主としてReviewingの段階で行われていることを示している。

従来、すべての学習者のすべての英作文に対して十分な添削を行うことは、時間的制約などの理由から極めて困難であった。しかし、生成AIの活用により、その実現可能性が高まりつつある点は評価できる。一方で、ライティングはReviewingの段階のみならず、PlanningやTranslatingの段階も同様に、あるいはそれ以上に重要である。「とりあえず書けば、あとは生成AIが修正してくれる」といった過度な依存が生じ、初稿(1st draft)作成のプロセスが軽視されることは望ましくない。そこで本稿では、学習者が自力で一定の量と質を備えた初稿を書けるようにすることを目的とし、特にPlanning段階における生成AIの具体的な活用方法を考えてみたい。

## 3. マインドマップを生成AIに作成してもらう

本稿では、ChatGPTなどの汎用型生成AIの活用方法を提案するにあたり、次のライティング課題を具体例として用いる。これは、自分の意見とその理由を論述する形式の課題であり、英検2級の2025年度第3回のライティング問題である。

- ・以下のTOPICについて、あなたの意見とその理由を2つ書きなさい。
- ・POINTSは理由を書く際の参考となる観点を示したものです。ただし、これら以外の観点から理由を書いてもかまいません。
- ・語数の目安は80語～100語です。

**TOPIC** Some people provide free online video content to help students study by themselves at home. Do you think this is a good idea?

**POINTS** · Convenience · Efficiency · Quality

(<https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/kakomon/2025-3-lji-2kyu.pdf>)

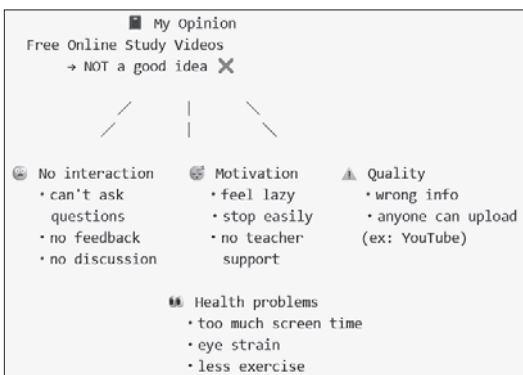
一般に、ある程度の分量の英作文を書く際には、

学習者は、アイデアマップやマインドマップなどを用いたブレインストーミングを行い、内容を整理するよう指導されることが多い。ChatGPTのような生成 AI も、マップ形式の出力が可能であり、マインドマップの例を提示させることができる。しかし、すべての工程を生成 AI に委ねてしまうと、学習者自身が思考を深める過程を経ないため、能力向上への寄与は限定的になる可能性がある。そこで本稿では、学習者自身の立場とは異なる意見について、生成 AI にマインドマップを作成させる方法を提案する。

例えば、学習者が「オンラインで無料動画コンテンツを提供することに賛成」という立場を取る場合、生成 AI には「反対」の立場でブレインストーミングを行わせる。以下は、ChatGPT(無料版)に入力したプロンプト例である。

- ・あなたは英語の中級学習者
  - ・以下のトピックで 100 語程度の英作文を書く  
Some people provide free online video content to help students study by themselves at home. Do you think this is a good idea?
  - ・あなたは good idea だと思っていない
  - ・ブレインストーミングとしてマインドマップを作る
- 【お願い】手書きノートのようなマインドマップの例を提示してください。

そして、ChatGPT が出力したマインドマップは以下のものである。



このように教師が設計したプロンプトを用いることで、学習者は自らとは異なる立場の論点を整理した例に触れることができる。前述のガイドラインでは、中高生が自らプロンプトを作成し、その出力を自由に活用することは慎重に扱うべきとされている

が、本事例のように教師主導で設計された枠組みの中で、教師が指定したプロンプトを用いて、生成 AI を活用することには一定の教育的意義が認められる。

また、このマインドマップでは、理由となる観点が 3 つ提示されている。これは課題で求められている理由数(2 つ)よりも多い。この点を活用し、「どの 2 つを選ぶか」を学習者に考えさせる活動へと発展させることも可能である。さらに、生成 AI に「あなたならどの 2 つを選ぶか」と問いかけ、学習者自身の選択理由も含めて入力することで、英語による対話的な検討活動へと展開できる。

例えば、次のようなフレームを提示するとよい。

I chose “ ” and “ ” because \_\_\_\_\_.  
How about you? Would you choose the same two reasons?

#### 4. アウトラインを生成 AI に批判してもらおう

本節でも、ライティングプロセスの Planning 段階における生成 AI の活用方法を提案する。前節ではブレインストーミングの場面を扱ったが、本節ではアウトライン作成の段階に焦点を当てる。具体的には、学習者が自ら作成したアウトラインを生成 AI に提示し、批判的なフィードバックを受けることで、その改善につなげることを目的とする。

以下は、ChatGPT(無料版)に入力したプロンプト例である。

- ・あなたは英語の中級学習者
  - ・次のメモは私のアウトライン
- My opinion: providing free online video content for students = a good idea
- Two reasons:
- 1) convenient
    - students can study anytime and anywhere
  - 2) efficient
    - students can decide where to watch carefully and where to watch quickly
- ・あなたも同じ課題に取り組んでいて、別の意見を持っている
- 【お願い】私のアウトラインを批判してください。

このプロンプトに対して、ChatGPT からは以下の出力が得られた。出力言語は指定していなかった

が、直前のやり取りを英語で行っていたため、英語で出力されたと考えられる。実際の授業では、学習者の習熟度に応じて、より平易な英語で出力させたり、日本語で出力させたりするなど、教師が適切に調整することが望ましい。

#### ① About “Convenient”

You say it is convenient because students can study anytime and anywhere. However, convenience does not always mean effective learning. If students study anytime, they may not study seriously. They might watch videos while using their phones or lying in bed. Also, without a fixed schedule, some students may procrastinate. So, convenience can reduce responsibility.

#### ② About “Efficient”

You say students can choose which parts to watch carefully. But many students do not know which parts are important. Teachers usually guide students and explain key points. Without guidance, students may skip important sections. Also, watching quickly does not mean understanding deeply.

教室内では、学習者同士がアウトラインを読み合い、相互に批判的コメントを行う活動を取り入れることも可能である。そのため、フィードバックは生成 AI からのみ受けるのではなく、クラスメイトや教師からも得られる環境が望ましい。ただし、時間的制約のため口頭でのやり取りが中心となる場合、内容が文章として記録に残りにくいという課題がある。その点、生成 AI によるフィードバックは文章として可視化されるため、内容面だけでなく表現面の学習素材としても活用できる。特に、批判的意見を述べる際の表現 (However, ... / Without ... など) は、そのまま初稿作成時の参考表現となり得る。

このように、Planning 段階において生成 AI を活用することで、内容面と表現面の双方に対する支援が可能となる。その結果、Translating 段階以降の執筆プロセスがより円滑に進むことが期待される。

## 5. 生成 AI に課題の取り組み方を提示してもらう

最後に、ある程度まとまった文章を書く際の手順

そのもの、すなわちライティングプロセス自体を生成 AI に問いかける活用方法について述べる。学習者がどのような順序で思考を整理し、初稿作成へと至るのかというメタレベルの視点を提示させることも、有効な活用の 1 つである。例えば、次のようなプロンプトを入力した。

あなたは英語の上級者。上級者のあなたが、この作文課題に自力で取り組む場合、初稿を作るまでに何をどんな順で行いますか？

ChatGPT からは以下の出力が得られた。

- ① 問題を正確に分析する (1 ~ 2 分)
- ② 立場を明確に決める (1 分)
- ③ プレインストーミング (3 ~ 5 分)
- ④ 論理構成を決める (2 分)
- ⑤ 使う表現を事前に決める
- ⑥ 語数バランスを設計する
- ⑦ 初稿を書く (5 分)
- ⑧ 最後にチェック (2 ~ 3 分)

それぞれの項目には簡潔な説明が付されていた。

例えば、「⑥ 語数バランスを設計する」では、「Introduction : 約 15 語, Reason 1 : 約 30 語, Reason 2 : 約 30 語, Conclusion : 約 15 語」といった具体的な語数配分の例が提示されていた。

このような情報は、学習者にとってライティングの見通しを可視化する手がかりとなるだけでなく、教師が指導計画を設計する際の参考資料ともなり得る。すなわち、生成 AI は単なる「添削ツール」ととどまらず、ライティングプロセスを明示化し、学習者にメタ認知的視点を提供する支援装置としても活用可能である。

以上のように、生成 AI を Reviewing 段階の補助に限定するのではなく、Planning やプロセス理解の段階を含めた多面的な活用を図ることによって、学習者のライティング能力の向上に資する可能性が広がる。

## 参考文献

Flower, Linda, & John R. Hayes. (1981). A cognitive process theory of writing. *College Composition and Communication*. 32(4), 365-387.

(東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 教授)